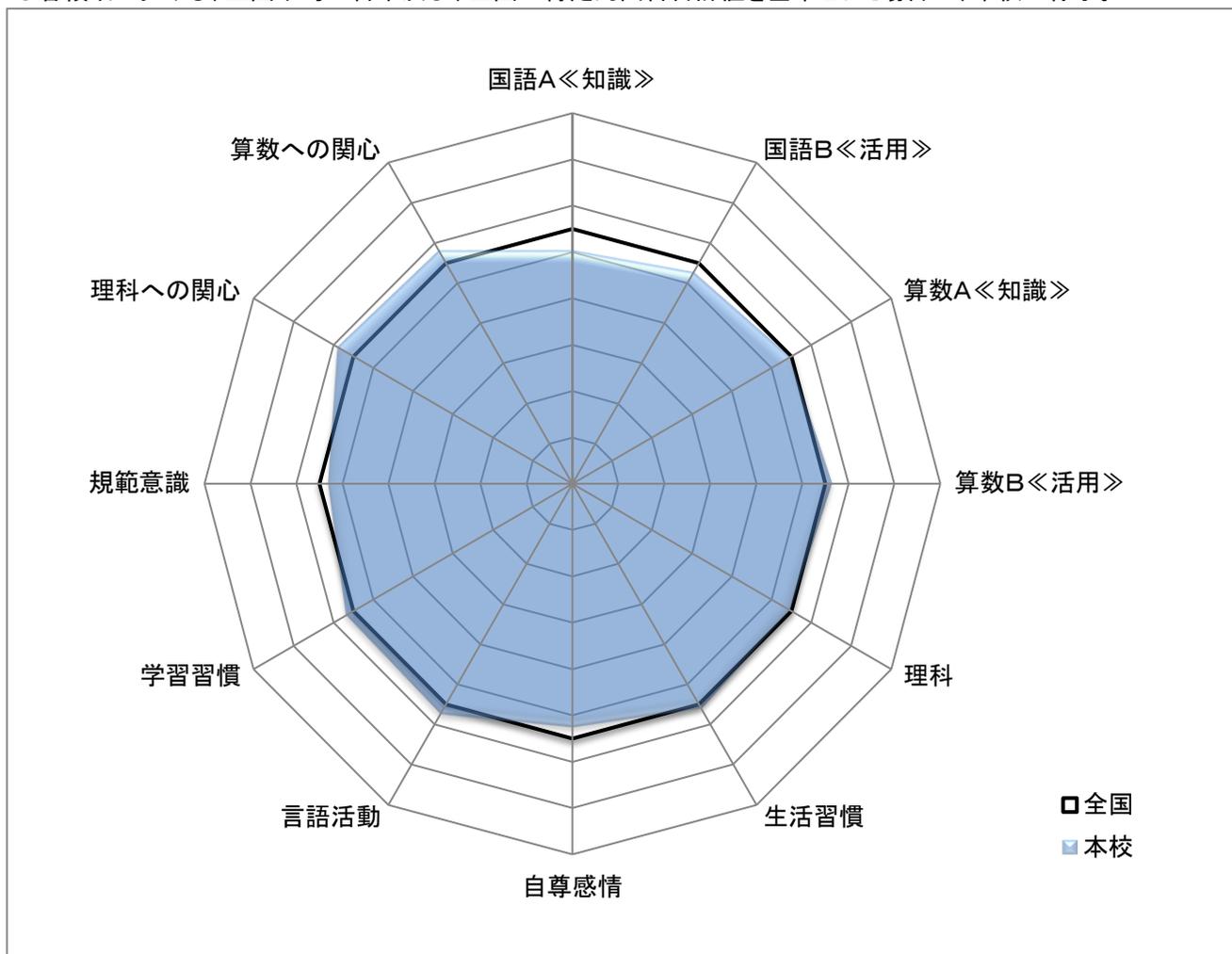


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語においては、「知識」「活用」ともに不十分なスコアであることから、基礎知識を積み上げ、既習事項を基に自ら思考して問題を解決しようとする姿勢を育てていくことが引き続き必要であると考える。

算数においては、「活用」に比べ「知識」が低いスコアであることから、日常的な算数的活動の充実により、基礎知識を積み上げていく工夫が引き続き必要であると考える。

《授業改善のポイント》

生活・学習習慣を引き続き定着させ、確かな学力の更なる向上を目指す。

「話す・聞く」能力を、より一層向上させるために、引き続き国語を中心に教育活動全体を通じて言語活動の充実を図る。特に高学年では、引き続き学習班の編成を工夫することで、児童相互の意見交換が活発に行える学習環境を構築する。

算数においては、確かな学力の定着を図るため、引き続き教育活動全体を通じて日常的な算数的活動を取り入れた学習活動を展開していく。また、基礎基本の定着を図るために、引き続き授業の中で様々なドリルや課題プリントを活用して、基礎の繰り返しを行っていく。

《チャートの特徴》

国語・算数ともに、「知識」より「活用」のスコアが上回っている。
算数への関心は、全国と比較すると、若干高いスコアとなっている。
理科への関心は、全国と比較すると、高いスコアとなっている。
また、生活習慣・自尊感情・言語活動・学習習慣・規範意識については、全国と比較すると、同じ程度のスコアとなっている。この5項目については、家庭との連携を、更に深めるよう努め、向上に取り組んでいく。

《家庭・地域への働きかけ》

言語活動と学習習慣のスコアの高さを生かし親子のコミュニケーションを更に促し、家庭学習の在り方や基礎学力を定着させるような家庭学習の内容を提案していく。算数において実生活との関連を図った家庭学習・自主学習の課題提示を工夫し「知識」の力を高めていく。